

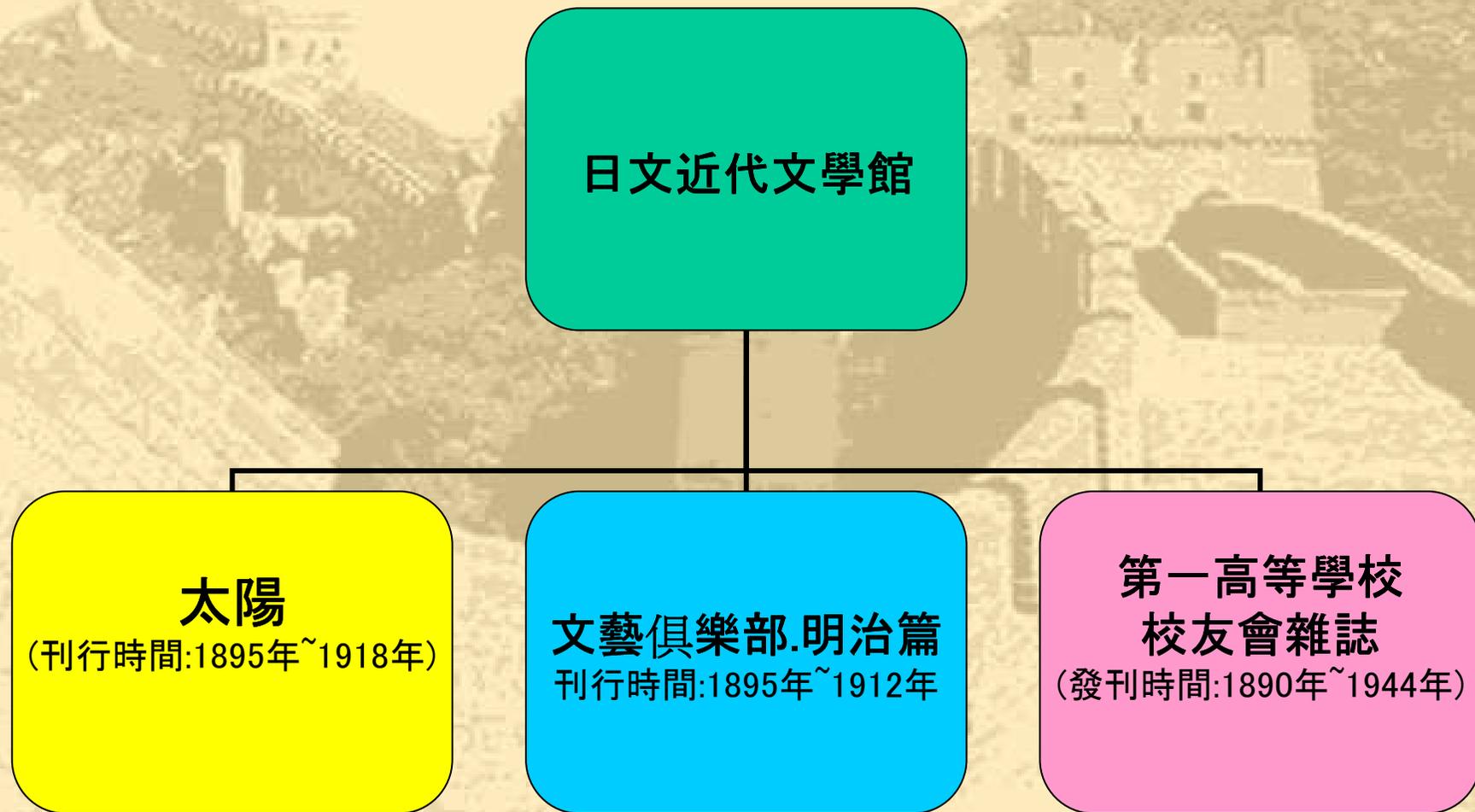
國科會人文處 日語研究資源建置計畫 北區推廣說明會

本館執行「國科會人文及社會科學日語研究資源建置計畫」，順利引進 11 種電子資源，同時蒐集相關領域公開取用資源逾 300 種，彙整於日語研究資源建置計劃網站，以利國內日語研究社群查詢與使用。為使國內相關社群充分瞭解本計畫建置資源之內容與使用方法，並促進國內日語人文 / 社會科學研究社群人員及資訊交流，特舉辦推廣說明會，以增進本計畫資源對使用者之實質幫助，並蒐集日語社群之未來建議。



日本近代文學館 操作說明：紀伊國屋

Web版 日本近代文學館主要結構



日本近代文學館 太陽

- ⌘ 創刊1895年(光緒21年,明治28年)~1918年(民國17年,昭和3)年。
- ⌘ 近代日本研究,台灣日治時期研究,原住民研究,近代中國研究,不可缺少之綜合雜誌。
- ⌘ 政治・軍事・經濟・社會・自然科學全般
・文學・風俗分野,總執筆者數6,500人
- ⌘ 全部有17萬5仟頁。
- ⌘ 可檢索4萬件標題。

文藝俱樂部 明治篇

- ⌘ 近代文学研究:美術・演劇・落語・風俗等、近代日本研究的一級資料!
- ⌘ 明治28年~大正元年所發行『明治文庫』『春夏秋冬』『世界文庫』『逸話文庫』『文芸共進会』等文藝刊物
- ⌘ 6000名執筆著者
- ⌘ 18000件詳細檢索書誌資料
- ⌘ 膨大點口繪・插繪(6,000件可詳細檢索)

第一高等學校 校友會雜誌

- ⌘ 創刊：明治23年(1890年)～昭和19年(1944年)
- ⌘ 明治至戰前期、主導日本整體文藝,文化,黨政,軍,人材輩出旧制一高的精神世界,貴重雜誌。
- ⌘ 收錄多數著名人在學生時代所發表未知習作・處女作(川端康成、小林秀雄、夏目漱石等々)。

Web版日本近代文学館操作步驟

JK select series Web版日本近代文学館

[使い方](#) | [FAQ\(よくある質問\)](#) | [お問い合わせ](#)

ログアウト/Logout

キーワード検索

項目検索

巻号検索

▼検索する書目:

全選択

全解除

近代雑誌 (近代文学館)

太陽

文芸倶楽部

校友会雑誌

▼検索条件:

検索開始

クリア

検索キーワード

キーワード検索の使い方

1. 「キーワード検索」は、「検索する書目」のすべての書誌データを検索します。チェックした書目が検索対象となります。
2. 「検索キーワード」の入力欄に検索したい語を入れ、「検索開始」ボタンを押します。
3. 検索結果一覧が表示されます。その中から、見たいタイトルをクリックすると、本文画面が表示されます。

スペース区切りで複数の語句を入れて検索 (AND検索) することもできます。
検索条件などの詳細は、[\[使い方\]](#)を参照してください。

© 2010 NetAdvance Inc. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.

太陽檢索步驟

キーワード検索

項目検索

巻号検索

▼検索する書目：

近代雑誌（近代文学館）

- 太陽
- 文芸倶楽部
- 校友会雑誌

全選択

全解除

▼検索条件：

検索キーワード

鳥居龍蔵

検索開始

クリア

検索結果（35件）

[前のページ](#)

21. **学芸** [沖縄諸島に住居せし先住人民に就て](#)
太陽 第11巻1号（明治 38年1月1日） 164 ~
鳥居龍蔵
22. **学芸** [八重山の石器時代の住民に就て](#)
太陽 第11巻5号（明治 38年4月1日） 165 ~
鳥居龍蔵
23. **学芸** [和歌山付近に於ける先住民の研究](#)
太陽 第11巻11号（明治 38年8月1日） 161 ~
鳥居龍蔵
24. **雑纂** [日本語と蒙古語の親族的関係](#)
太陽 第13巻5号（明治 40年4月1日） 185 ~
鳥居龍蔵
25. **雑纂** [久米氏の『日本古代史』を読む](#)
太陽 第13巻8号（明治 40年6月1日） 200 ~
鳥居龍蔵
26. **学芸** [人種学上より見たる『皇清職工図』](#)
太陽 第15巻14号（明治 42年11月1日） 161 ~
鳥居龍蔵
27. **吾人祖先は東京にいつ頃来たか**
太陽 大慶大火一周年記念号 第30巻11号（大正 13年9月1日） 144 ~
鳥居龍蔵
28. **最古人類とその文化**
太陽 世界の驚異 第31巻8号（大正 14年6月15日） 100 ~

太陽(台灣生蕃相關研究紀要) 人類学関係研究論文,絶版原住民圖片

台灣生番酋長在東京受招待所攝影的照片(太陽
第3卷19號:明治30年9月20日所示珍貴照片)



臺灣蕃人の話

宮原武熊

一話の人物考一

私の臺灣蕃人研究熱は、大正十三年十一月ウライ蕃社を訪うた時に始まる。千八百尺の山中に、彼らの原始的生活を目撃し、殊に風土に接してると、皇土の中といふ氣はせず、遠く数千里の異郷にあるやうな地がして、強烈の感觸に打たれ、爾後彼らの生活状態を一瞥正確に知りたいたい欲求が、一日して絶えなくなつた。所が昨年偶然にも、その希望の實現される機会が來つたのである。

大正十四年八月、私は突然招かれて、臺南病院院長兼として勤務する事となつたので、恰もよし、この五月の休日に利用し、親しく臺南に分入つて、蕃人の治療に従事し、彼等に文化の權威とありがた味を極つて、彼らの生活を知りたいものだと考へた。そこで池間醫補と二人、千人舟の醫務機を携へ、十二月二十七日に高雄州管下の恒春宿、四重溪に

向つて發足した、露の零とは云へ臺灣の冬は内地の春を思はせて實に暖かなものである。四重溪を選んだのは、其處には温泉が湧いて交通の衝に當り、其の周圍三里程の間に、牡丹社—五六百戸あつて、臺南中最も大きな部落である—、高士嶺、四林格、竹社、天加地來、外加地來—等の蕃社が散在して、それらの蕃人は集めるのに、好都合だと思つたからである。

臺南は昔時時代は府城へ府治の色で、之から風山を経て恒春に行く途中、生蕃の異郷だつた山ありがら恒春で築いた蕃防寨—所謂隘寮—を設けてゐた。之も思つたに清國が、開山蕃社の策定したる爲に防備したもので、今は悉く廢れて僅かに其の殘存留の跡であるが、道は之に添うて行くのである。臺南から潮州驛までは汽車の便があり、其處から車城庄の驛場といふ所まで自動車が行く、そこから川に添うて一里湖と四重溪である。明治七年の臺灣征伐は、

一話の人物考一

この四重溪を中心として行はれたもので、大日本琉球藩民五十四名之黨—は統帥にあり、石牌の裏面には西郷都督の名を以て其の事蹟が記され、旅のく人をして往時を偲ばせて居る。

○首取り實は大の難病者

前以て高雄洲運溪の遺跡を得種々な手續をしてあつたら、大勢の蕃人たちは、運溪に連れられて集つてきた。私たちが二人は、運業學校を治療所にして、早速治療に取りかつた。醫部や運業が助手である。

第一に驚かされたのは、彼らが犬の感病者で、食人鬼に等しい首取り共が、ほんの一すした手術でも恐つて、却か受けよとしないことであつた。偶々雙眼の蕃者があつて、年の頃は二十二、頭には南京玉や羽毛を飾り、手首には猪の皮を巻き、腰に番刀を挿へて、兎からに氣風な男である。閉ぢはまた獨身だつた。養眼をするも別振が見違へるやうになるからと、運業も共に連れ出すので見られけれども、恐がつてどうしても背入れない。二時間もかかつて漸く、それでは本人の一寸入れて見よう、強かつたら、止めるから、といふ事でも入れてやつた。因り強かつたら、止めるから、といふ事で「アア、之を養眼」と強をとつて見せると、アア驚いたのは御本人、どつちが悪い眼だかわからない、生れ代つ

た様になつてるので、その嫌しがること、嫌しがることと、うだ、痛いだらう、もう除らうか」と嫌いふといふ、もとんだ愛嬌を發揮した。

いよいよ痛くないと何つたので、アア、養眼希望者があらはれてきた。面白つたのは牡丹社の子で、四十ばかりの後輩であるが色氣たつたので、それが譯をきいてやつた。養眼をしたあと、眼を見せると、その喜び様といつたらない、十六七の小娘のやうに、羞かしく顔をかくし、また眼を見ては顔をかくし、何時までも眼をなさうとしないうで、われと我が眼の速に美しくなつたのに、見とれて了つた形である。之には私どもも多つて了つた。

○養眼と猫の眼の話

續いて四十位の首女がきたが、之も簡単な手術で、一寸位で見えるやうになつた。藥がまた馬鹿によく効く。養業不良で視官症が多いが、之なども僅か二回の眼藥でどん／＼治る。内科も外科も同様で、私どもも愉快でたまらない。「今度は一つ、眼の出し手術をして見せてやらう」とさう思つて、眼を一寸切つてみた。驚いた、全感感傷してゐる群衆は、姉妹の子のやうにもう散つて、再びさへ

太陽(中國大清帝國相關研究)

帝國往事、北清事件、日清戦争、袁世凱、帝國舊照片

説論

清帝國の將來

中橋徳五郎 第一緒論

回顧すれば、第十九世紀の末葉に當り、歐米列國の間、昔謂はく、世界を三分する者は、必ずアン・グロ・カタン人、スライッ人、及支那人の三者是れ也と。此予想や一時歴約の間に默認せられ、論究を果ねたる一の斷案として信ぜらるゝの觀ありき。然るに、たゞ日本が支那と衝突し、一聲して其老朽腐敗の眞相を暴露するや、此未來記は立どころに破壊せられて、全く其論據を喪ふに及びぬ。

爾後第二十世紀の初に至り、英米露獨佛の五列強は、全く世界活動の主力となり、他列國若し其併呑する時とならずんば、舉げて其意志に服従し、行動一に其指導に由らざるを得ざるに至る可との豫らざる。端なく日露の戦争は起り、露國の老犬にして爲すなまじ、忽ち世界に暴露せられしが爲め、再び此豫言の被棄不成立を見るに及びぬ。又一派の論者は、英米兩國を連結して、茲にアン・グロ・カタンの大合同を圖り、第二十世紀の世界は、全く此民族の併呑する所とならんと推測せり。されど先づ論も亦、日露開戦の爲めに、其論據を破られ果んぬ。是に於てか、苟くも東洋の政治、經濟に

○關する諸問題を解決せんとす。若し日本人の其最有力の分子として算せざれば、到底其未來を語り得べからざるなり。恐らくは獨り東洋に於てのみならず、世界の政治、經濟に於ても、總べて日本を度外に擯さざる可し。

是に由て此を觀れば、第十九世紀に於ける、歐米人の未來記は、悉く破られたりと謂ふ可し。かくて茲に新なる未來記を呼び起すの必要を生ず。而して此未來記の標點となるべき未知數は、清國の命數、即ち該帝國の運命是れ也。

第二 各國歴代の命數

今昔に各國歴代の命數を概観するに、古來專制國に在りては、概して百年乃至三百年より長久なるはあらず。希臘、羅馬、及波斯の如き、其他支那の二十二代、殆んど此數を免れず。此れ蓋し歴朝の初には、不世出の豪傑出て、其兵備を擴張し、其財政を整理し、其官制を振奮して、人民の福利を圖りし爲め、偉大なる勢力を以て、其國の統一を圖らせしに依り、一時強盛四隣を降するの時運に遇するを得たるも、專制國の特質として、爾後年所を關するに隨ひ、漸次其權力を減じ、官制の弛緩を來たし、政治の腐敗を長じ、財政の不整理隨つて生じ、爲めに自ら中央及邊疆の兵備を維持する能はず。其終りては、遂に自ら中央及邊疆の兵備を維持する能はず。亦收拾するに由なきを致す。是れ其概して百年乃至三百年に涉りて、腐蝕し盡くす一般の命數也。清朝國を建て、より、既に三百年に達しんとす。歴代各朝の命數を以て之を推すに、今や既に滅亡の時期に達せる者也。其氣息奄々と

日本明治政府對大清帝國研究論文

り嘆きへり過ぎて、何ともハヤ驚いた似て居る。

△二度の飯は三度に減らして、米代を貯蓄ばかりで暮らすものでないから、醫者廊の骨頂だ、田舎者の分際で粗服を着る汰であるから、布子や木綿で洋山だ、何檢約して貯蓄をするに限るといつたやうもない出鱈目を口にかけて嘆きつて居ねば、今にも國家が減びるやうに思ひ込よものは、一寸申合せて大病の外醫を招た處もあり、誰かに飯を廢して病にした心は其の影響を受けて、一時火の消へたと云つた。

△消費力は減るし、工業は中止するし、商業は益々沈衰するし、國民は恰も喪に於て來たから、其の反動は忽ち起つて來かちては法が持たない、大に食らひ大に消極主義は、國民の活動力を殺ぐの法を放任して置ては人心はいよいよ萎縮して、經濟界からも政治界からも、一齊にやうになつた。

△今は伯も餘程困られて居るさうだが、非上伯のやうに、檢約を主として殆んどては、所謂佛作つて飛入れぬことに



明治38年6月15日第11卷9號所
示當時權儲一世大清帝國聖母皇太后慈禧及光緒皇帝、親王照片

歴史性珍貴圖片

校友會雜誌(大文豪高校處女作品)

校友會雜誌第350號(昭和10年2月14日)

選後感想

小林秀雄

づば抜けていゝ作品はなかつたから、二等を二つ、三等を二つといふ事に川端さんと相談して決めたが、二等の区別もあまり利然としたものではない。

四篇のうち岡田俊恒君の「轉落」が最も素直な作品である。感情の流れが一貫してゐるところをとる。尤も作者は自分の素直さをことさら大切にする必要はないと思ふ。若年期の素直さ自慢が由来だ不安定なものだからである。千葉哲郎君の「瀧壺」も同じ様に自己嫌惡小説を主調としてゐるものだが、いろいろ四邊の風景にも氣を配つて、かなり複雑な展開部を持つてゐる。又それだけに印象の統一を缺してゐるのは仕方がない。

下平賢司君の「やいゆえよ」、恐らくこゝに書かれた生活は作者の空想であらう。特に女との關係は、さう思はせるところがこの作品の弱さである。この作者の感受性はなかなか鋭敏だと思つたが、感受性に根が生えるにはまだ時間を要するであらう。

大森東太郎の「ながれ」、自分は冷靜な常識的な人間だと自覺してゐて實はまるで非常識な男、さういふ男を書いてゐる。世間によくある奴だが、さういふ不快な男にも一種の同情が持てる餘裕が作者にない、なかなかかういふ作品は成功し難い。同情を持たぬとさういふ男の微妙さがわかり難いからである。無論無理な注文とは思ふが、四篇を通じての美點は、書かうと思ふ處を書いて道草をしてゐないところ、缺點は道草はしてゐないが、書かうと思ふものはつきり見極めないうちに歩き出してゐるところ。以上

大文豪高校時代處女作

選後少感

川端康成

新しい時代の出發がこゝにあらうと、私は日頃から、一高の學生諸君に敬意と興味とを寄せてゐる。従つて、諸君の作品が讀めることは、喜びであつた。文學作品としては、もとより未成品であらうけれども、一高生がなにを考へ、いかに生きてゐるかは、知れるだらうと思つたからである。

ところが、結果は失望に終つた。少くとも、塵幕小説に於ては、私の期待は裏切られた。新しい文學精神の、また技法の、萌芽は殆んど見られなかつた。一等とするに足るものはなかつた。

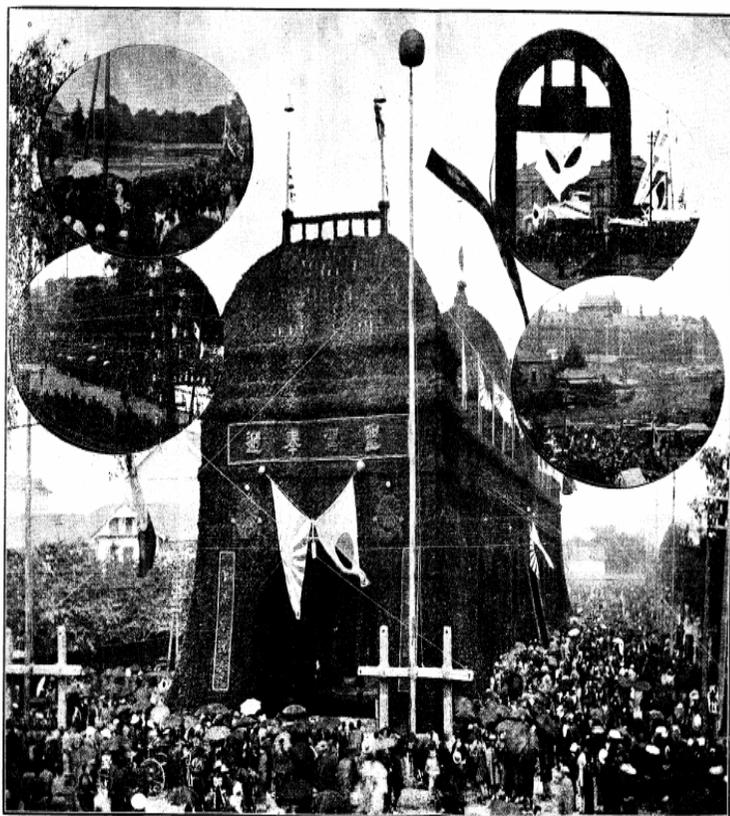
集つた作品の出来のよさに就てよりも、悪さに就て考へる方が、文學一般の問題になるのではないかとさへ思ふ。

しかし願つて思へば、期待する私の方がまちがつてゐたのである。現在の高等學校の學生諸君の年齢では、まだ小説など書ける道理がないのである。また書く必要もないのである。作家志望の人と云へども、月刊雜誌の片々たる作品目をつけるよりは語學の勉強、自分で書くよりは一般教養の深化、これこそ大切である。文壇の風潮に従つて、心を右に左するは、諸君の將來に百害あつて一利なく、今にして東西の古典に親しまざれば、一生の悔となるだらう。従つて、今回の作品の當落などは、諸君の才能の計量とは、殆んどなんの關係もない。諸君に才能がないのではなくて、未だ發せずと、私は見るよりしかたがない。一々の作品に選評を試みたところで、實際無益であらう。もし塵幕の自作に就て、私の感想を求められる方は、直接私宅を訪れられたい。公表の選評は書く氣がしない。

文藝俱樂部 明治篇

文藝俱樂部 明治28年6月28日刊

文藝俱樂部 明治篇(明治28年6月20日)



船場二外武堂 東京の風景 門旋翼頭原谷比日 門橋大橋中谷比日

文藝俱樂部第六編



泉鏡花

(上)

實は好奇心の故に然れども予は予が畫師たるを利器として兎も角も口實を設けつゝ予と兄弟も曾ならざる醫學士高峯を強ひて、某の日東京府下の一病院に於て、渠が刀を下すべき、貴態伯爵夫人の手術をば予をして見せしむることを余儀なくした。

其日午前九時過ぐる頃家を出で、病院に腕車を飛ばしつゝ直ちに外科室の方に赴く時、先方より戸を排してすらくと出来る華族の小間使とも見ゆる容目妍き婦人二三人と、廊下の半ばに行違へり。

見れば渠等の間には、被布着たる一個七八才の娘を擁しつゝ、見送るは姿に見えずなれり。これのみならず玄關より外科室外科室より二階なる病室に通ふあひだの長き廊下には、フロックコート着たる紳士制服着けたる武官、或は羽織袴の扮装の人物、其他、貴夫人令嬢等いづれも尋常ならず氣高きが、彼方に行違ひ此方に落合ひ或は歩し或は停し、往復恰も續るが如し。予は今門前に於て見たる數臺の馬車に思ひ合はせて、密かに心に領けり。渠等の或者は沈痛に、或者は憂慮しげに、ばた或者は儼しげに、いづれも顔色穩ならず忙し

小説 外科室

一